

鶴戸

うと



第 **89** 号

紀元 2680 年
令和 2 年

発行所 鶴戸神宮社務所 宮崎県日南市大字宮浦3232番地 電話 0987-29-1001 FAX 0987-29-1003
<https://www.udojingu.com/> ©編集 鶴戸編集室

『日本書紀』 編纂千三百年の年を迎へて

鵜戸神宮宮司 黒岩 昭彦



「令和」と改まつて最初の正月を迎へるにあたり、謹んで新年のご挨拶を申し上げます。庚子(かのえね・こうし)の本年、我が国の隆昌と皇室の弥栄、氏子崇敬者の皆様方の安寧をご祈念申し上げます。

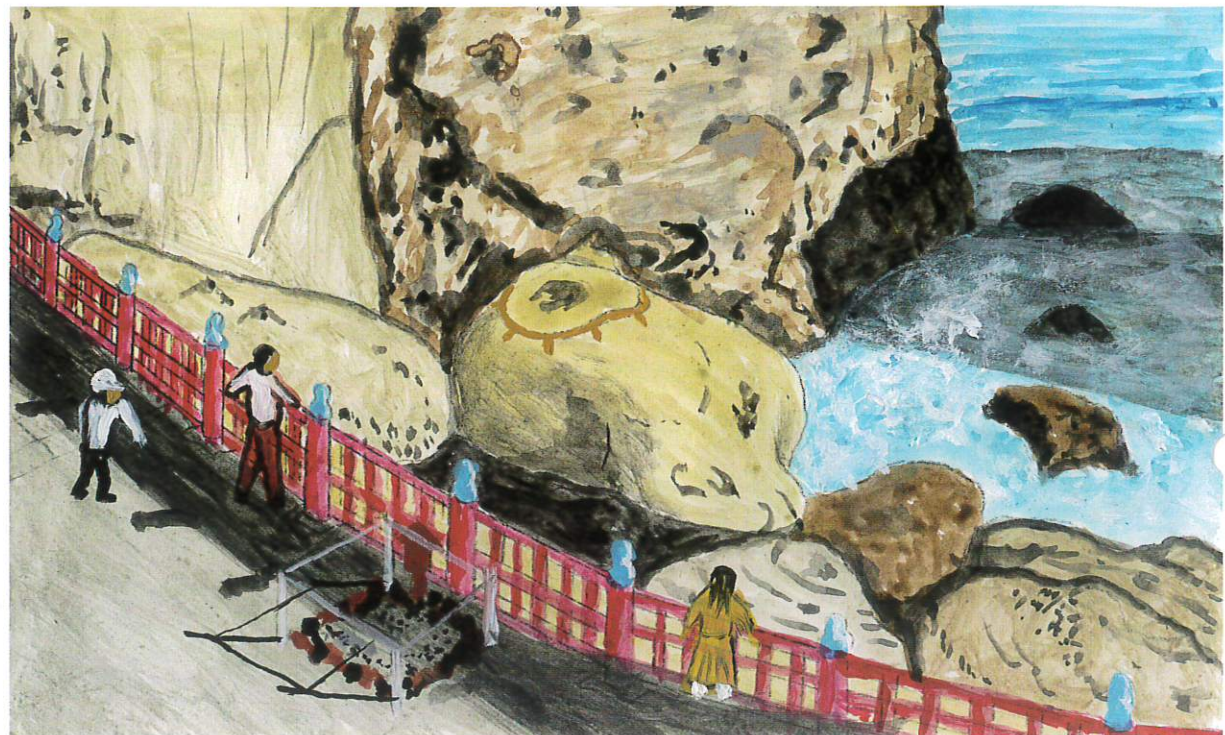
さて「神話」とされる神々の物語は、日本最古の古典である『古事記』や『日本書紀』などに依拠してゐます。天武天皇の命を受けて『古事記』は、稗田阿礼(ひただのあ礼)の口述を和銅五年(七二二)に太安万侶(おののやすまろ)が編纂し完成させました。一方の『日本書紀』は、養老四年(七二〇)に舍人親王(とねりしんのう)が完成させました。両書はほぼ同時期に編纂されましたが、形式や内容の異同も少なくありません。和化漢文の物語調である『古事記』三巻に対して、

文・編年体の正史としての『日本書紀』は三十巻もあります。神話のロマンより、実際の歴史書としての側面が『日本書紀』の方が強いのです。



この『日本書紀』に鵜戸神宮の御祭神・鷓鴣草葺不合尊(うがやまかみあはすのみこと)はどのやうに描かれてゐるのでせうか。尊のご誕生になつた産屋については、

是より先に、豊玉姫(あめみま)、天孫(あまみま)に謂(い)して日(ひ)さく、「妾(わが)已(や)に有(あ)る娠(ご)めり。天孫(あまみま)の胤(みこ)を、豈(いか)海(うみ)の中に産(う)むべけむや。故(ゆゑ)、産(う)まむ時(とき)には、必ず君(きみ)が處(ところ)に就(つ)む。如(ごと)し我が為(ため)に屋(や)を海(うみ)邊(べ)に造(つく)りて、相(あ)待(まち)つた産(う)屋(や)については、



「亀石」 画：瀧田賢二(鵜戸神宮権禰宜)

豊玉姫と出(で)会(あ)ひ結(むす)ばれました。豊玉姫は身籠(みかご)つたことを尊(みこと)に述べましたが、天孫(あまみま)を海(うみ)で産(う)むわけにはいかないとして、海(うみ)辺(べ)に産(う)屋(や)を設(た)けました。尊(みこと)は地上(ちのうへ)に帰(かへ)り、鵜(う)の羽(は)で屋(や)根(ね)を葺(ふ)いた産(う)屋(や)を造(つく)りましたが、それが出来(でき)上が(あ)る前(ま)に、妹(いもうと)の玉依(たまより)姫(ひめ)を従(したが)へて海(うみ)を赤(あか)々と照(あ)らしてやつて来(こ)られたといふのです。因(よ)みに、豊玉(あめみま)姫(ひめ)は大(おほ)きな亀(かめ)に乗(の)つて来(こ)られたとありますが、鵜(う)戸(と)神(かみ)宮(みや)では、この亀(かめ)は後(のち)に岩(いわ)になつたと伝(つた)はつてゐます。いふまでもなく、それは運(う)玉(たま)を投(な)げ入(い)れる「亀(かめ)石(いし)」のことです。



ちたまはば、是(こ)所(ところ)望(ねが)なり」とまうす。故(ゆゑ)、彦(ひこ)火(か)出(で)見(み)尊(みこと)、已(や)に郷(さと)に還(かへ)りて、即(すなは)ち鷓(う)鴣(か)草(くさ)の羽(は)を以(も)つて、葺(ふ)きて産(う)屋(や)を為(な)す。屋(や)の蓋(い)未(ま)だ合(あ)へぬに、豊(あ)玉(たま)姫(ひめ)、自(みづか)らに大(おほ)亀(かめ)に馭(お)りて、女(むすめ)弟(と)玉(たま)依(より)姫(ひめ)を將(ひき)みて、海(うみ)を光(てる)して来(こ)到(きた)る。

とあります。

この前提として「海幸山幸」の神話を知らねばなりません。

日向(ひなた)の国(くに)に海(うみ)幸(さい)彦(ひこ)と山(やま)幸(さい)彦(ひこ)といふ兄弟(あにがたり)があ(あ)りて、海(うみ)幸(さい)彦(ひこ)は釣(つり)りをして毎日(まいにち)してゐました。ある時(とき)、釣(つり)道具(道具)と自(みづか)分の狩(か)りの道具(道具)を取(と)り換(か)へて漁(いし)をした弟(あにがたり)が、大(おほ)切(き)な兄(あにがたり)の釣(つり)り針(はり)を無(な)くし怒(い)りを買(か)ひました。そこで海(うみ)神(かみ)の宮(みや)殿(でん)に向(むか)つた山(やま)幸(さい)彦(ひこ)は、海(うみ)神(かみ)の娘(むすめ)である

このやうに『日本書紀』には、鷓鴣草葺不合尊(うがやまかみあはすのみこと)といふお名前の由来(ゆゑ)が記(き)されてをり、神話(かみ)から歴史(れきし)へとつながらる転換(てんか)が、神々(かみ)の物語(ものがたり)を通して鮮(あ)やかに描(えが)かれてゐます。そして、尊(みこと)の皇子(みまろ)にあたる初代(はつだい)神武(かむ)天皇(てんおう)より一度(いちど)の王朝(てんわ)の交代(こうたい)もなく、世界(せかい)にも類(たぐひ)を見(み)ない万世(まんに)一系(いつけい)の天皇(てんおう)が国(くに)の象(しやう)徴(てい)として君臨(きんりん)せられたきた事(こと)実(じ)を知る(しる)のです。

我(われ)々(われ)は昨(きの)年(ねん)に第一(だいいち)二(に)六(ろく)代(だい)天(てん)皇(わう)陛(へい)下(か)の即位(き)礼(れい)・大(おほ)嘗(かみ)祭(まつり)を目(め)の当(あた)りにしてき行(い)はれるもので、天(てん)皇(わう)陛(へい)下(か)には、御(ご)親(おや)ら日本(にっぽん)の主(しゆ)食(じき)であるお米(こめ)ななどの農(のう)産(さん)物(ぶつ)をお供(とも)へになら(な)れ、五(ご)穀(こく)豊(とよ)穰(じやう)と国(くに)の安(やす)寧(ねい)とを祈(いの)られたと承(う)つてゐます。それら(それら)の儀(ぎ)式(しき)の核(かく)となつてゐたものは、三(さん)種(しゆ)の神(かみ)器(き)にしても稲(いね)作(さく)にしても、実(じつ)は『古(こ)事(じ)記(き)』や『日本(にっぽん)書(しよ)紀(き)』のなかに、その謂(い)れが記(き)述(じゆつ)されてゐるのです。

時(とき)あたかも、本年(こゝねん)は『日本(にっぽん)書(しよ)紀(き)』編(へん)纂(さん)千(せん)三(さん)百(ひゃく)年(ねん)の節(せつ)目(め)の年(ねん)にあたります。日(にっ)向(きやう)三(さん)代(だい)に關(かん)する記(き)述(じゆつ)も多(おほ)くあり、宮(みや)崎(さき)で暮(く)らす我(われ)々(われ)にとつて身(み)近(ぢか)でゆかり深(ふか)いものがあります。『日本(にっぽん)書(しよ)紀(き)』を紐(ひも)解(かい)きながら、日本(にっぽん)の国(くに)柄(がら)について考(こう)へる機(き)会(かい)としたいものです。

鵜戸神宮祭と神事

(下半期)

月次祭

毎月一日

午前十時よりご本殿にて齋行しています。

大神様のご神恩に感謝し、皇室・国家の弥栄と、氏子・崇敬者をはじめ、国民の安全と隆昌、幸せを祈念する祭典です。

縁日祭・誕生感謝奉告祭

毎月初卯の日

午前十時よりご本殿にて齋行しています。

毎月、初の卯の日は鵜戸神宮のご縁日にあたり、ご神縁に感謝し祭典を行っています。

兔が当神宮のご祭神のお使いであったと古くより伝えられており、縁ある動物となっています。また、鵜戸神宮敬神婦人会の当月誕生日の方々から神恩に感謝を奉告する為に参列されます。

抜穂祭

七月下旬頃

ご神田にて抜穂祭を齋行します。日南市は全国的にも有名な超早場米の産地です。祭典終了後には、鵜戸小中学校児童、はまゆう農業協同組合の女性職員も刈女として参加し、照りつける日差しの中、稲刈りを行います。

伊勢えびまつり豊漁祈願祭

八月二十九日

日南市内の飲食店関係者参列の中、「伊勢えびまつり豊漁祈願祭」を齋行します。

日南市では例年伊勢えび漁解禁とともに「伊勢えびまつり」が開催され、各飲食店にて提供されています。

敬老祭

九月第三月曜日

儀式殿鎮座記念祭

十一月十七日

昭和四十七年十一月十七日に儀式殿が新築されたことから、その完成した日を記念して行われるお祭りです。

火産霊神社例祭

十二月三日

日常生活に欠かせない「火(火産霊の神)」に感謝すると共に、火災などの災いが来ないようにお鎮めするお祭りです。生ワカメや真砂を使って火を消す「火鎮めの儀式」を執り行います。

秋分祭・秋季皇霊祭

九月「秋分の日」

自然の恵みに感謝すると共に、祖先を敬い代々うけつがれてきた命の大切さや家族との絆を再確認する節目の日です。皇室の弥栄と国の平安、皆様のご繁栄と幸せを祈るお祭りです。

神嘗奉祝祭

十月十七日



抜穂祭(令和元年8月9日)

門守祭

十二月十五日

楼門の二階部分にご鎮座されている「櫛磐窓神」「豊磐窓神」をお祭りします。平成二十九年に改修工事を行い、現在では美しく蘇った姿で皆様のご参拝をお待ちしています。

煤払祭

十二月二十七日

一年間で溜まった煤を払い隅々まで清めて、新年を清々しく迎える為の準備をする祭典です。また、祭典後には亀岩の注連縄の張替え・楼門に掛けてある絵馬の掛替えを行います。

大祓

十二月三十一日

大晦日午後四時より儀式殿前広場にて齋行。日常生活において知らず知らずのうちにふりかかった大小の災難や穢れ(気枯れ)を祓い清め、明るく平穏な日々を送るための大事な年中行事のひとつです。

明治祭・縁日大祭・誕生感謝奉告祭

十一月三日

明治天皇のご神徳に感謝するお祭りです。また、秋の縁日大祭・誕生感謝奉告祭を齋行します。

平成遷座記念祭

十一月六日

平成九年に鵜戸神宮のご本殿を塗り替え、綺麗に出来上



伊勢えびまつり豊漁祈願祭(令和元年8月29日)

除夜祭

十二月三十一日

一年の最後のお祭りです。「年越祭」とも呼ばれます。行く年の無事に感謝し、来る年の安全を祈ります。

燈籠奉納奉告祭

令和元年六月二十二日

鵜戸神宮清水満雄責任役員が燈籠一对を奉納されました。清水役員参列の下、ご本殿にて奉納奉告祭を齋行しました。その後、清め祓いの儀を執り行いました。

鬼の像奉納奉告祭

令和元年十一月二十三日

広島県の名栄工業株式会社代表取締役・保手濱俊一氏が鬼の像を奉納されました。保手濱氏参列の下、御本殿にて奉納奉告祭を齋行しました。その後、清め祓いの儀を執り行いました。



神嘗奉祝祭(令和元年10月17日)



参進する神職(令和元年12月1日)

ご大典の神事と奉祝事業

祭典・神事

鵜戸神宮では、昨年四月二十九日の「昭和祭」に合わせ「御讓位安泰祈願祭」を、また五月一日には「踐祚改元奉告祭」を責任役員・氏子総代参列の下、齋行致しました。



祝詞を奏上する宮司(10月22日)

「御讓位安泰祈願祭」では、三十年余のご治世を国民と共に歩まれてきた天皇・皇后両陛下への感謝と、ご讓位に伴ふ諸儀式が無事滞りなく齋行されることを念じました。一方、「踐祚改元奉告祭」では、元号が「平成」から「令和」へと改元されたことの奉

告と、第一二六代天皇の御位に踐祚遊ばされた新帝のご治世の安泰と国家の隆昌とを祈念致しました。

そして十月二十二日には「即位礼当日祭」を、また十一月十五日には「大嘗祭当日祭」も齋行致しました。新帝が高御座にて国内外に即位を宣明された「即位礼」と、「大嘗祭」が齋行されたことを大前に奉告したものです。

なお、これらの神事とは別に、一連のご大典の諸儀式が厳粛かつ盛大に執り行われるように、六月一日の月次祭から大嘗祭当日祭までの恒例祭で祝詞を奏上しました。



子供神楽(11月4日)

奉祝事業

ご大典奉祝の活動として、ご讓位から新帝ご即位に合わせて、国旗セットを全氏子(百十一組)に頒布しました。この祝祭日の期間、鵜戸地区全体で掲揚して奉祝の誠を捧げました。また、ご本殿正面にご即位奉祝幟旗を一对

掲げ、参拝者休憩所にはご大典告知ポスターを掲示しました。

そして五月一日には新元号「令和」をプリントした特製クリアファイル(神社本庁発行冊子「御代替わり―平成から新しい御代へ」国やすかれ民やすかれ)を差し込み(二六七九枚、奉祝餅二四

八個を、当神宮の敬神婦人会に助成いただき無料配布致しました。昨年初代・神武天皇が即位されてより二六七九年にあたること、更には「大化」から数えて「令和」が二四八番目の元号となることに拠るものです。なお、奉祝記帳簿を五月一日より一カ月間設置し、四七七〇名の方

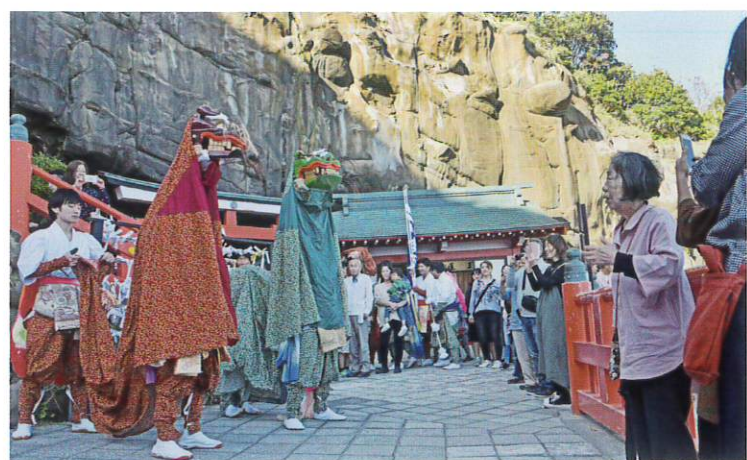
が記帳されたものを宮内庁に奉納致しました。一方、秋の即位礼・大嘗祭における活動としては、十一月二日から三日にかけて、「奉祝・御神宝展」を儀式殿において開催し、更に四日には神賑行事として舞楽やシャンシャン馬道中唄などの奉納芸能も披露され、多くの参拝者で賑わいました。

長期的事業

長期的展望にたった御大典奉祝記念事業として、「令和の森」づくりの植樹活動を行い、楠二十本、椎二十本を境内神苑に植えました。

戦後、高度経済成長を遂げ、多くの日本人がその恩恵に預かっていますが、その「豊かさ」は、何千年も前の先人たちから受け継いできた自然を破壊するという犠牲の上に築かれてきたものでもあります。近年急激にす

む地球温暖化等の環境問題といった現状を鑑みて、日々の営みの中で自然を大切にすることを育てゆくことが、日本人の心の環境さえも豊かにする方途と考えます。森をつくることは海を護ることもつながります。鵜戸神宮では「令和の森」づくりを通して、環境汚染破壊に警鐘を鳴らしていくと共に、豊かな海や森のある自然と、科学文明の進歩とが調和する、「共生社会」の実現を発信して参りたいと考えています。



妻万神社の獅子舞(11月4日)

十一月二日から三日にかけて、「奉祝・御神宝展」を儀式殿において開催し、更に四日には神賑行事として舞楽やシャンシャン馬道中唄などの奉納芸能も披露され、多くの参拝者で賑わいました。

◎奉祝行事(10月～11月)

1. 鵜戸神宮御神宝展

◇日時 令和元年11月2・3日
◇場所 鵜戸神宮儀式殿

2. 神賑行事

舞楽・子供神楽・神楽・獅子舞・hula・津軽三味線
ポニートポニート・みなと幼稚園園児による和太鼓
剣道形・真剣実演・シャンシャン馬道中唄 他
◇日時 令和元年11月4日
◇場所 御本殿

3. 郷土のお菓子「ふくれがし」振る舞い

◇日時 令和元年11月4日
◇場所 休憩所(手水舎前)

4. 天皇陛下御即位奉祝記帳

◇日時 令和元年10月12日～11月15日
◇場所 休憩所(手水舎前)

5. 御大典奉祝記念御朱印

◇期間 令和元年10月21日～11月15日

令和2年厄年早見表

女 性				男 性		
	平成2年生 31才		厄入		昭和56年生 40才	
昭和60年生 36才	平成元年生 32才	平成15年生 18才	前厄	昭和36年生 60才	昭和55年生 41才	平成9年生 24才
昭和59年生 37才	昭和63年生 33才	平成14年生 19才	本厄	昭和35年生 61才	昭和54年生 42才	平成8年生 25才
昭和58年生 38才	昭和62年生 34才	平成13年生 20才	後厄	昭和34年生 62才	昭和53年生 43才	平成7年生 26才
	昭和61年生 35才		厄明		昭和52年生 44才	

※「厄入」「厄明」の年は、日南市の風習による。

授与品各種

当神宮は、古くから安産のご信仰があります。ご祭神の母君・豊玉姫命が御子の育児のために、両乳房をご神窟にくつつけられたという霊石「おちちいわ」が洞窟奥にあります。そのため、現在も安産、子宝、子供の健やかな成長を願う人々の心のよりどころとなっています。なお、お乳の出がよくなるという「おちちあめ」を頒布しています。



岩田帯 初穂料2,500円



安産守 初穂料2,000円



おちちあめ 初穂料300円

ご朱印帳各種

昨今では、参拝の際にご朱印を受ける方々が多くみられるようになりました。当神宮では現在、五種類を頒布しております。

ご朱印帳をお持ちの方は、社務所もしくはご社頭にて記帳しております。

※ご朱印帳を持参されていない方でも、書き置きがありますので、お気軽にお声掛けください。



ご朱印帳各種 1,000円 ※朱印代は含まない(記帳代、書き置きの朱印は300円です。)

お守り各種

授与品を何点か紹介致します。授与所にて頒布しておりますので参拝の際には、ぜひご覧ください。

幸の玉お守り

初穂料 三〇〇円

当神宮の名物であります「運玉」が入ったお守りです。参拝に来られた方々が投げられ、見事枳形に入った運玉だけを回収し、お祓いをして、お守りとして奉製しております。



家内安全お守り 商売繁盛お守り

初穂料 一、二〇〇円

家族や、家庭内の平安をお護りします。商売繁盛のお守りは、商売がうまくいくこと、軌道に乗ることを願う人が身につけます。



厄年 年表

新年を迎えるにあたり、厄をお祓いしましょう。

ご祈祷のご案内

ご祈祷は「ご祈願」ともいい、神さまのご守護をいただけるように願う求める神事です。

通常の参拝は、社殿の前に置かれている賽銭箱にお賽銭を奉納して拝礼しますが、初宮参りや七五三などのお祝いごと、家内安全や商売繁昌、厄除などの特別なお願いごとがあるときには、社殿に上がって参拝することができます。



- 安産 初宮詣
- 七五三詣
- 厄除
- 家内安全
- 身体健全
- 商売繁盛
- 合格祈願
- 車禍
- 海幸祭
- 心願成就
- 病氣平癒
- 報賽祈願
- 学業成就
- 事業繁栄
- 社運隆昌

新年特別祈願のご案内

新年を寿ぎ、元旦より三日間に限り新年の特別祈願(郵送・持ち込み可)を執り行っています。「一年の計は元旦にあり」と申します。新しい年が良き年でありますことを願い、ここにご案内申し上げます。

元 日……五時半斎行
二、三日……八時斎行
初穂料……五千円から

六月大祓のご案内

日常生活において、知らず知らずのうちに心身にたまった罪・穢れ(気枯れ)を祓い去る夏越の大祓式(茅の輪くぐり)が、六月三十日に執り行われます。

遠方で参列できない方でもお申し込みできますので、社務所にお問い合わせ下さい。

◎受付時間…午前九時～午後四時迄
◎ご祈祷料…五〇〇〇円

※予約は行っていませんので、
鶴戸神宮ご本殿へ直接お越しください。

社務日誌抄

平成三十一年

- 一月一日 歳旦祭
- 一月二日 初日供祭
- 一月三日 元始祭
- 一月三日 岩崎稲荷神社獅子舞保存会舞奉納
- 一月七日 昭和天皇御陵遥拝式
- 一月九日 成人祭
- 一月十日 恵比須神社例祭
- 一月十二日 皇學館大学河野副学長正式参拝
- 一月十六日 古神符焼納祭
- 一月二十二日 南那珂支部神宮大麻頒布終了奉告祭
- 一月二十六日 第一駐車場横トイレ改修工事祈願祭
- 一月二十八日 波切神社例祭
- 一月三十一日 例祭前夜祭
- 二月一日 例祭
- 二月二日 吾平山上御陵祭・第四十六回四半的弓道大会
- 二月三日 節分祭
- 二月三日 鹿児島マゲロ船主協会海幸祭
- 二月三日 第六十六回剣法発祥鶴戸山顕彰剣道大会
- 二月五日 広島東洋カープ必勝祈願祭
- 二月十日 明星大学藤岡寛次氏参拝
- 二月十一日 紀元祭
- 二月十四日 鶴戸稲荷神社例祭
- 二月十四日 播種祭
- 二月十七日 祈年祭
- 二月十九日 山形県神社庁山形支部正式参拝
- 二月二十四日 天皇陛下御即位三十年奉祝奉告祭
- 三月四日 白鬚神社西原清純宮司正式参拝

- 三月十一日 御神田清祓祭
- 三月十三日 五十猛神社正式参拝
- 三月二十日 御神田御田植祭
- 三月二十一日 春季皇靈祭遥拝式・春分祭
- 三月二十九日 第一駐車場横トイレ竣工奉告祭
- 三月三十日 春の縁日大祭・誕生感謝奉告祭
- 三月三十一日 第三十三回シヤンシヤン馬道中 第三十三回シヤンシヤン馬道中 再現
- 四月三日 神武天皇御陵遥拝式
- 四月六日 株式会社テクノ兔の像奉納
- 四月十日 天皇皇后両陛下御結婚満六十年 奉祝祭
- 四月二十九日 昭和祭
- 四月二十九日 御譲位安泰祈願祭
- 四月三十日 自動車所鎮座記念祭

令和元年

- 五月一日 踐祚改元奉告祭
- 五月四日 上皇皇后御参拝記念祭
- 五月五日 神御衣祭・節句祭・いさみ太鼓奉納
- 五月十六日 別当宮司先賢慰霊祭
- 五月十六日 高橋康雄氏燈籠奉納報告祭
- 六月三十日 住吉神社例祭・九柱神社例祭・大祓式
- 六月三十日 本部雅裕宮司退任奉告祭
- 七月一日 黒岩昭彦宮司就任奉告祭・月次祭
- 七月九日 広島護国神社正式参拝
- 七月十日 鶴戸神宮防災の日・消防訓練実施
- 七月十一日 延岡市春日社木村宮司参拝
- 七月十六日 宮崎神宮本部雅裕宮司正式参拝
- 七月十七日 広島護国神社藤本武則宮司他十名 正式参拝
- 七月三十日 愛知県護国神社高羽信浩宮司参拝
- 八月九日 抜穂祭

- 八月二十三日 伊弉諾神宮本名孝至宮司
- 八月二十九日 伊勢えびまつり豊漁祈願祭
- 九月一日 月次祭・新穀感謝祭
- 九月八日 宮崎神宮氏子青年会正式参拝
- 九月十五日 嘯吹八幡神社初山宮司他十六名 参拝
- 九月十六日 敬老祭
- 九月十六日 秋季皇靈祭遥拝式・秋分祭
- 九月二十三日 出雲大社千家比古権宮司正式参拝
- 十月七日 皇子神社例祭
- 十月七日 地区皇子神社例祭
- 十月八日 マレーシア剣道連盟五名参拝
- 十月十日 南那珂支部神宮大麻頒布始奉告祭
- 十月十七日 神嘗祭遥拝式・神嘗奉祝祭
- 十月二十二日 即位礼当日祭
- 十月二十三日 海洋観測艦「にちなん」海上安全祈願
- 十月二十七日 福智神社例祭
- 十一月二、三日 御神宝展開催
- 十一月三日 明治祭、秋の縁日大祭、誕生感謝奉告祭

- 十一月四日 御大典奉祝行事開催
- 十一月六日 平成遷座記念祭
- 十一月八日 神御衣祭・七五三祭
- 十一月十二日 臨時大祓
- 十一月十五日 大嘗祭当日祭
- 十一月十七日 儀式殿鎮座記念祭
- 十一月十八日 祐徳稲荷神社鍋島朝寿宮司正式参拝
- 十一月二十四日 水神祭
- 十二月三日 火産靈神社例祭
- 十二月十一日 駐日中国大使孔鉉佑氏他九名正式参拝
- 十二月十五日 門守祭
- 十二月二十七日 煤払祭・亀石注連縄張替え絵馬 掛け替え
- 十二月三十一日 大祓式・除夜祭

鶴戸横丁①



「宮交ショップ&レストラン三ツ和荘」

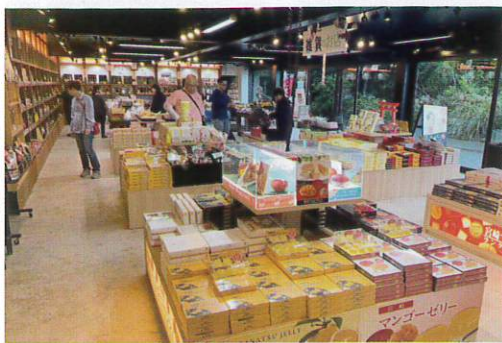
― 鶴戸神宮の門前 ―

創業は明治八年（一八七五）と古く、現在も多くの観光客が訪れています。新婚旅行のメッカとして、多くの新婚カップル、観光客が来県していた昭和四十年～五十年代には、日南海岸で一番大きな店舗としても有名でした。一度に八

百人が食事をできるレストランなども営業し、鶴戸地方の郷土料理や新鮮な魚介類を食材にした磯料理などを提供、大いに賑わったそうです。平成二十八年八月三十一日に現在の「宮交ショップ&レストラン三ツ和荘」と

百人が食事をできるレストランなども営業し、鶴戸地方の郷土料理や新鮮な魚介類を食材にした磯料理などを提供、大いに賑わったそうです。平成二十八年八月三十一日に現在の「宮交ショップ&レストラン三ツ和荘」と

されたTシャツや自然をモチーフとした手ぬぐいなどを揃えています。昨年十月三日放映の「ぐるナイ」に出演された女優の土屋太鳳さんが着用したTシャツ（背中に「鶴戸」と入っている）も販売しています。そして「レインフォレストカフェ」では、環境に優しいこだわりのコーヒーを提供しています。また、ジャンボシュークリームやスイーツ、海外の観光客にも人気の抹茶ソフト、さっぱりした日向夏ソフトも好評です。



☎ 0987-29-1131
営業時間 9:00～17:00 年中無休(天候による)

- 【お車の方】
- ◎宮崎空港から 約50分
 - ◎日南市内から 約20分
- 【路線バスの方】
- ◎宮崎市内から
(宮交シティバス停/宮崎空港バス停)
 - 日南行きまたは、飫肥行きまたは都井岬行きに
乗車約60～70分
 - 鶴戸神宮にて下車 徒歩約10分

[国指定名勝]

鵜戸神宮 結婚式のご案内

太平洋を臨む景勝地での神前結婚式

結婚式は人生においてもっとも晴れやかな儀式です。
神話の息づく大自然に囲まれた神域で、新しい人生の門出を祝う
神前結婚式を挙げてみませんか。



うがやふきあえずのみこと
ご祭神 **鷓鴣草葺不合尊**
「縁結び」「安産」「夫婦和合」の神さま

主な結婚式の内容(神職2名、巫女2名にてご奉仕します。)

- | | |
|-----------------------------|-----------------------------|
| 1. 修 祓 … 参列者をお祓いします。 | 4. 三献の儀 … 三三九度にて御神酒をいただきます。 |
| 2. 祝詞奏上 … 斎主が祝詞を奏上します。 | 5. 指輪交換 … 新郎新婦が指輪を交換します。 |
| 3. 豊栄の舞 … お二人の幸せを願ひ巫女が舞います。 | 6. 誓詞奏上 … 新郎新婦が永久の誓いをたてます。 |

プラン

- 衣 装 … 和装、洋装どちらも可
- 参 列 者 … 両家合わせて30名迄
- 前 撮 … 可(要予約)

■ 挙式費用

儀式殿での神前婚儀

50,000(税別)円

本殿での神前婚儀

100,000(税別)円